

研究種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究助成金	<input checked="" type="checkbox"/> 研究成果刊行助成金
	<input type="checkbox"/> 21世紀研究開発奨励金 (共同研究助成金)	<input type="checkbox"/> 21世紀教育開発奨励金 (教育推進研究助成金)
研究課題名	生産と市場の進化経済学	
研究者所属・氏名	研究代表者：経済学部 経済学科 谷口和久	

1. 研究目的・内容

経済現象の核としての市場と生産に関して、進化経済学の視点から執筆した書籍の出版

2. 研究経過及び成果

現在、進化経済学に関する学会は世界的にはアメリカ・欧州・日本にあるが、日本の進化経済学会は経済学系の研究者に加えて、理学系・工学系の研究者も含まれており、多様な学際的研究が行われている。関連する専門書は多数出版され、近年では辞書も含めて一般向けの書籍も徐々に出版されつつあるが、生産と市場という経済学のコア概念に焦点を絞った書籍はほとんどないのが現状である。よって、進化経済学の視点から経済現象の核(Core)である生産と市場に関して執筆し、その研究成果を出版した。

本書には筆者の手がける人工市場研究も含まれている。このようなマルチ・エージェント・ベースドシミュレーション研究は新しい研究開拓領域であり、新たに進出する若手の研究者も増加しつつあるから、進化経済学のこの分野への参入を考えている若手研究者・大学院生にとっては新しい研究の指標となるものでもある。

具体的な内容であるが、およそ次の通りである。

導入部としての第1章に続いて、第I部では生産活動に関して執筆した。第I部は4章構成であり、生産活動を循環の観点から記述した。経済活動は身近な現象であり、それゆえに日常的に使われる言葉が使われるが、経済学的に正確な理解が必要である。経済統計の意味は知っているもその統計の存在理由まで知らなければ本当の理解にはならない。数式モデルを使うことで理解も深まるから経済学上の重要な定理もいくつか紹介し、そのような観点から生産活動の統一的理解が出来るようにした。また、失業など深刻な問題に関しても経済学の取り組みを紹介した。第II部は4章構成で、市場の働きについて記述した。市場の前提である交換の実現に必要な概念から始まり、交換の普遍性や市場が存在する理由とその意義も述べた。また、一般的通用交換手段としての貨幣の存在や価格についても、創発現象から記述した。さらに、経済学が学問として自立する過程や現代の金融制度に関しても述べた。現在、継続している人工市場研究についてもその成果について述べた。さらに、経済現象の基層としての道徳や人間の行動ルールについても記述し、現在も探索の続いている生物進化と社会・文化進化の重要性についても触れた。行動経済学や実験経済学とも深いつながりのある分野である。

なお、出版社は当初2社を候補として選定したが、最終的に広い販路があり、また進化経済学に関しての出版実績がある「共立出版」から出版することとした。

3. 本研究と関連した今後の研究計画

近年，進化経済学に関する意欲的な出版物が，相次いで出されているので，進化経済学会では，平成 23 年 7 月に「進化経済学に関する出版物」に関するミニシンポジウムが開催された。幾つかの代表的な書籍が取り上げられ，論評された。

本書もそこで取り上げられ，総じて良い評価を得たが，不足している点や改善されるべき点も指摘された。とりわけ，技術進歩や産業変化などに関する記述にそのような指摘がなされたので，今後は，そのような批判を吸収し生かすことで，より一層包括的な進化経済学の研究を行う予定である。

4. 成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
進化経済学会 シンポジウム	シンポジウム(口頭)	2011年7月9日
進化経済学会	口頭	2012年3月18日
欧州経済学説史学会	口頭	2012年5月18日